

## 熊野の暮らしの布、市木木綿

市木木綿は着物やモンペ、布団生地など熊野の人々の暮らしの布として愛されてきました。使い古した物は、風呂敷やお手玉、わらぼうりの鼻緒として大切に再利用されてきました。現代は大量生産、使い捨てる時代ですが、人々の暮らしの中で思い出と一緒に長く使っていただけるような布を作っていきたいと思っています。



市木木綿織元向井ふとん店  
向井浩高



三重県伝統工芸市木木綿織元



## 向井ふとん店

〒519-4323 三重県熊野市木本町684

TEL 0597-85-2432

FAX 0597-89-3571

向井ふとん店 検索

営業時間：9時～19時 定休日：日曜日・第二、第四月曜日



店内では市木木綿の商品のほか、生地の販売も行っております。

また、布団マイスターの資格を持つ店主による最適な寝具の提案、体にやさしいアロマセラピーなど、複合的な快眠サポートも行っております。



体に優しい商品にこだわった、やすらぎのふとん店です。毎日の癒しに役立つ商品も多数揃えております。



市木木綿  
ICHIGI MOMEN

市木木綿は昔から熊野の人々の暮らしの布として愛されてきました。やさしい風合いを残したくて、今も織り続けています。





## 市木木綿の歴史

市木木綿(いちぎもめん)は熊野古道、伊勢路、浜街道沿いの市木村(現、三重県御浜町下市木)で明治時代に始まりました。使い込むほどに肌になじむ風合いが好評をよび、最盛期には45軒もの織元がありました。しかし、昭和の時代に入り、大量生産の繊維の波におされ徐々に減っていきました。今では、生産者は私一人だけとなっています(2015年現在)。



「ふるさとの思い出写真集熊野」より  
大正時代の様子



今は一人で織っています

## 風合いの秘密

市木木綿の風合いの秘密は、やわらかい糸と年代物の力織機(りきおりき)にあります。手で引っ張ると切れてしまうくらいの柔らかい国内最高級の単糸(たんし:然りをかけていない糸)を使い木綿生地を織り上げていきます。柔らかい糸なので、切れやすくのり付けをしなくては織れませんが、使い込んでいくうちに、のりがぬけて独特のやわらかい風合いになります。



## 伝統の技術

柔らかい糸を織り上げていくのが先々代から使っている古い力織機です。古い織物の為に新しい部品もなく修理も大変です。天気や湿度、温度によって勘をたよりにした微妙な調整が必要です。手間はかかりますが柔らかい糸に無理な力をかけずに、通気性がよく手織りに近い素朴な風合いの布に仕上がります。



古い織り機を大切に使っています

## 市木木綿を使用した商品



■ 定番の座布団

■ 鼻緒が市木木綿のあさぶら(ぞうり)

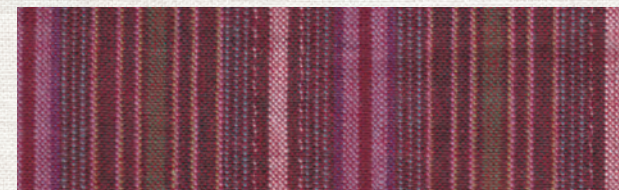
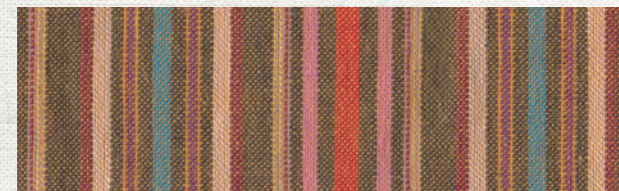
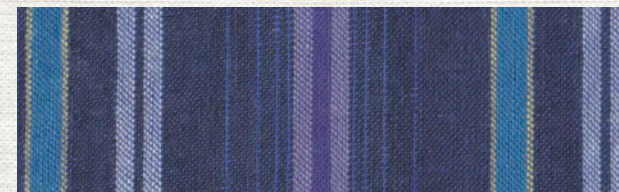
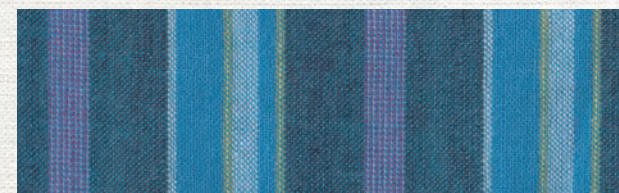
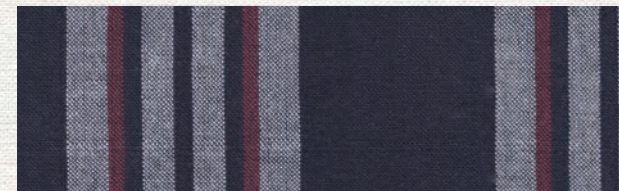
■ 小粋な箸入れ

■ モダンな巾着袋

■ 癒しの木綿布団

現代の市木木綿は様々な生活の品に形を変えていきます。使うほどにやわらかい風合いの増す市木木綿を暮らし中に加えてはいかがでしょうか。

## 市木木綿縞帖



座布団など、お好きな柄でお作りさせていただきます。

お問い合わせは向井ふとん店まで

TEL 0597-85-2432